

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽

ひろしま遊学の森 広島県緑化センターメールマガジン VOL. 338 H29. 5. 5

△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲

5月に入りオオルリやクロツグミ等野鳥のさえずりで賑やかになりました。花ではヒトツバタゴ（別名ナンジャモンジャ）（写真1左）やホオノキ（写真1右）が咲きはじめました。ハンカチノキ（写真2左）は総苞片が落ち始めましたが、もう少し楽しめます。

★ 開花情報

ホオノキ（朴の木）モクレン科モクレン属（写真1右）

日本の単葉の樹木としては最も大きな葉をつけるホオノキは、北海道から九州の山地に自生する落葉高木です。花も大形で径20cm以上になり、爽やかな芳香がありますが、蜜を出しません。飛騨、木曾地方の郷土料理の朴葉味噌は、葉の上に味噌をのせて焼きます。ツバキ園に自生している株が咲き始めました。ここのホオノキは毎年、園内で最初に開花します。

場所：見本園、山林内他

ハンカチノキ ヌマミズキ科ダヴィディア属（写真2左）

中国大陸南部の標高1000~2000mの高地に限り自生する落葉高木で、19世紀にフランス人宣教師のアルマン・ダヴィッド氏によって発見されました。5月初めに球形の花序の基部からハンカチのような2枚の白い総苞片が垂れ下がります。この様子からハンカチノキと名付けられました。近くを歩くとこの花の独特な香りが漂っています。

場所：管理事務所前

ヒメヤマツツジ（姫山躑躅）ツツジ科ツツジ属（写真2右）

ヤマツツジの変種で広島県と山口県に自生します。花や葉がヤマツツジより小さく、花弁はピンク色を帯びます。

場所：東山作業路

クリシマツツジ（霧島躑躅）ツツジ科ツツジ属（写真3左上）

江戸時代に江戸を中心に育成されたツツジで、サタツツジから作出された、またはヤマツツジとミヤマクリシマの交配とも考えられています。色鮮やかな赤色をはじめ、白、ピンク、紫等の花色があります。

場所：管理事務所横三叉路他

フジ（藤）マメ科フジ属（写真3右上）

かつて摂津国野田（現在の大阪市西成区付近）の藤之宮に名所があったことから、ノダフジとも呼ばれる落葉つる性木本です。各地の公園等で藤棚に仕立てられ、八重咲きや1m近い長さの花序になる品種もあります。幹は上から見て時計回りに巻き上がります。山林に自生するヤマフジは花序が10~20cmで、小葉は4~6対でノダフジの5~9対より少なくなります。

この他、ケナシヤブデマリの花がすべて装飾花になった品種オオデマリ（写真3左下）も咲き始めました。また、葉緑体を持たず菌根菌を介して樹木から養分を得るギンリョウソウ（写真3右下）もレストハウス裏で発生しています。

★園内見頃状況まとめ

咲き始め	ヒトツバタゴ (写真 1), ホオノキ (写真 1), オオデマリ (写真 3), コデマリ, ヒラドツツジ, カマツカ, ハイノキ, ギンリョウソウ (写真 3), 他
見頃	ハンカチノキ (写真 2), ヒメヤマツツジ (写真 2), キリシマツツジ (写真 3), フジ (写真 3), セイヨウシャクナゲ, ズミ, ナナカマド 他

※最も早い開花情報発信はツイッターになります

アカウント名 @Ryokkacenter

URL <https://twitter.com/ryokkacenter>

ぜひご利用ください。



写真1左 ヒトツバタゴ (多目的広場) H29.5.5



写真1右 ホオノキ (ツバキ園) H29.5.4



写真2左 ハンカチノキ（管理事務所前） H29.5.4



写真2右 ヒメヤマツツジ（東山作業路） H29.5.4



写真3左上 キリシマツツジ（管理事務所横三叉路） H29.5.4



写真3右上 フジ(ノダフジ)（出合いの広場） H29.5.4



写真3左下 オオデマリ（しゃくなげロード入口） H29.5.5



写真3右下 ギンリョウソウ（レストハウス裏） H29.5.5